

# ～ 2年生 ～

科目をクリックするとシラバスが表示されます

## 【普通科目】

国語  
[言語文化](#)

地歴公民  
[公共](#)

数学  
[数学Ⅰ](#)

理科  
[化学基礎](#)

保健体育  
[体育](#)  
[保健](#)

外国語  
[英語コミュニケーションⅠ](#)

家庭  
[家庭総合](#)

## 【専門科目】

商業

《2A》

[財務会計Ⅰ](#)  
[ソフトウェア活用](#)  
[プログラミング](#)

《2B》

[ソフトウェア活用](#)  
[マーケティング](#)  
[ビジネスマネジメント](#)

《2C》

[商品開発と流通](#)  
[財務会計Ⅰ](#)  
[原価計算](#)  
[プログラミング](#)  
[ネットワーク活用](#)

## 【学校設定科目】

[日本語Ⅱ](#)

教科	国語	科目	言語文化	単位数	2
教科書（出版社）	言語文化（大修館書店）				
副教材（出版社）	国語必携ライトパーフェクト演習 三訂版（尚文出版）、LT現代文2（浜島書店）				
授業の概要	近代以降の様々な文章や古典作品に触れることで、「読解力」・「思考力」・「表現力」を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深める。				
授業の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動をとおして、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。				

	学期	学習内容（単元・項目）	学習目標
年間 学 習 計 画	1 学 期	小説 「羅生門」  古文 歴史的仮名遣い 「児のそら寝」(宇治拾遺物語) 「絵仏師良秀」(宇治拾遺物語)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 比喩や象徴に着目しながら作品を読み、表現の仕方やその効果について理解する。</li> <li>・ 幻想的な作品世界を味わいながら本文を読むこととおして、読書の意義と効用を理解する。</li> <li>・ 古文に親しみをもち、その特徴に慣れるとともに、古典文法の基礎知識を身に付ける。</li> <li>・ 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解する。</li> </ul>
	2 学 期	小説 「城の崎にて」  古文 「芥川」(伊勢物語) 「筒井筒」(伊勢物語)  短歌 十五首	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小説の主題を読み取る言語感覚を磨き、新しい発見を自覚する。</li> <li>・ 作品に興味をもち、主人公の心情の変化を、動物や自然との関わりから理解する。</li> <li>・ 歌物語について理解し、話の展開や登場人物の心情について把握する。</li> <li>・ 作者のものの見方、考え方を読み取ることで、自身の生活を振り返り、観察眼を養う。</li> <li>・ 短歌に興味をもち、作品にうたわれている情景や心情を読み味わう。</li> </ul>
	3 学 期	俳句 十二句  漢文 訓読のきまり 「論語・孟子」 「蛇足」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 俳句に興味をもち、作品にうたわれている情景や心情を読み味わう。</li> <li>・ 漢文学習への興味をもつとともに、漢文訓読のきまりを理解する。</li> <li>・ 作品に興味をもち、現代に生きている言葉や考え方について理解する。</li> <li>・ 作品に興味をもち、場面ごとの人物の心情の変化を読み取る。</li> </ul>

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価 規 準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉をとおして積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。
評価 方 法	定期考査 小テスト 課題	定期考査 ワークシート・ノート 課題	学習態度・活動観察 課題・ノート・ワークシ ト 発表・パフォーマンス課題



教科	公民	科目	公共	単位数	2
教科書 (出版社)	公共 (実教出版)				
副教材 (出版社)	公共 演習ノート (実教出版)				
授業の概要	倫理的分野、政治的分野、経済的分野について社会的な見方・考え方を働かせながら、自身の経験や現代社会の諸課題を事例にしながらより良い人間や社会の在り方を追求する。				
授業の目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の優位な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				

年間 学 習 計 画	学期	学習内容 (単元・項目)	学習目標
	1 学期	第1部 公共の扉 1 社会を作る私たち 2 人間としてよく生きる 3 他者とともに生きる 4 民主社会の倫理 5 民主国家における基本原理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解する。</li> <li>・社会に参画する自立した主体とは、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現する。</li> </ul>
	2 学期	第2部 よりよい社会の形成に参加する私たち 1 日本国憲法の基本的性格 2 日本の政治機構と政治参加 3 現代の経済社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配などの基本的原理について理解する。</li> <li>・法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野にいれながら事実を基に協働して考察したり、論拠をもって表現する。</li> </ul>
	3 学期	4 日本経済の特質と国民生活 5 国際政治の動向と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の配分が図られること、国民福祉の向上に寄与する役割を政府などが担っていること、経済活動と個人の尊重を共に成立させることが必要であることについて理解する。</li> <li>・法、政治及び経済などの側面を関連させ、解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、事実を基に協働して考察したり、論拠をもって表現する。</li> </ul>

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解する。</li> <li>・諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めようとしている。</li> </ul>
評価 方 法	定期考査 ワークシート 授業中の観察	定期考査 ワークシート 授業中の観察	ワークシート 学期ごとの振り返りシート



教科	数学	科目	数学 I (2年)	単位数	3
----	----	----	-----------	-----	---

教科書 (出版社)	新編 数学 I (数研出版)
-----------	----------------

副教材 (出版社)	新課程 3TRIAL 数学 I (数研出版)
-----------	------------------------

授業の概要 及び 授業の目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動をととして、次のような資質・能力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な概念や原理・法則を理解し、事象を数学化したり、数学的に表現・処理したりする技能</li> <li>・数や式を多面的に見て、目的に応じて式変形する力や、データについて適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、結果を批判的に考察し判断したりする力</li> <li>・数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度や、問題解決の過程を振り返って考察したり、評価・改善したりしようとする態度</li> </ul>
----------------------	---

学期	学習内容 (単元・項目)	学習目標
1 学期	1章 数と式 1節 式の計算 2節 実数 3節 1次不等式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・式の特徴を捉え、複雑な式を簡単な式に帰着させ、公式を適切に活用する考え方を理解できる。</li> <li>・数を実数まで拡張する意義を理解するとともに、簡単な無理数の四則計算をすることができる。</li> <li>・不等式とその解の意味を理解できる。</li> <li>・事象を数学的に捉え、1次不等式を問題解決に活用することができる。</li> </ul>
2 学期	3章 2次関数 1節 2次関数とグラフ 2節 2次関数の値の変化 3節 2次方程式と2次不等式 4章 図形と計量 1節 三角比	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平行移動の考え方をを用いて2次関数のグラフの概形をかく、数学的な見方や考え方のよさを認識できる。</li> <li>・2次関数、2次方程式、2次不等式を解く方法を考察することができる。</li> <li>・三角比の相互関係を利用できる。</li> <li>・事象を数学的に捉え、三角比を問題解決に活用することができる。</li> </ul>
3 学期	2章 集合と命題 5章 データの分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命題の真偽を、その真理集合に置き換えて考えることができる。</li> <li>・いろいろな命題の逆、裏、対偶を考えたり、真偽を判断したりすることができる。</li> <li>・四分位数、四分位範囲、四分位偏差や分散、標準偏差の意味を理解して、それらを利用して、データの傾向を的確にとらえ説明することができる。</li> </ul>

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基準	整式の計算ができる。 与えられた条件を満たす2次関数を求めることができる。 三角比の値を求めることができる。 逆・裏・対偶を作ることができる。 相関係数が求められる。	公式の仕組みを理解している。 2次関数のグラフをかくことができる。 問題から適切な三角比の考え方や公式の利用を判断できる。 命題の真偽を判断できる。 代表値・分散・標準偏差を理解し、結果を考察できる。	数学のよさを認識し、数学を活用しようとする。 問題解決の過程を振り返って考察したり、評価・改善したりしようとする。

備考	<p>数学を学ぶことで数学的なものの考え方を理解し、事象を数学的に考察し、表現する能力を養う。日常生活においても論理的に思考する力を養いたい。</p>
----	---



教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2
教科書（出版社）	高等学校 新化学基礎（第一学習社）				
副教材（出版社）	新課程版 ネオパルノート化学基礎（第一学習社）				
授業の概要	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究していく。				
授業の目標	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。				

年間学習計画	学期	学習内容（単元・項目）	学習目標
	1学期	第1章 物質の構成 第1節 物質とその構成要素 第2節 化学結合	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な物質を取り上げ、混合物から純物質を分離したり精製したりする実験などを行い、実験における基本操作と科学的に探究する方法を身に付ける。</li> <li>身近な物質を取り上げ、元素を確認する実験などを行い、単体や化合物について理解する。</li> <li>粒子の熱運動と粒子間に働く力との関係により、物質の状態変化が起こることを理解する。</li> <li>原子の構造および陽子、中性子、電子の性質を理解する。</li> <li>元素の周期律および原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解する。</li> <li>イオンの生成を電子配置と関連付けて理解するとともに、イオン結合がイオン間の静電的な引力による結合であることや、イオン結合でできた物質の性質を理解する。</li> <li>共有結合を電子配置と関連付けて理解する。</li> <li>共有結合でできた物質の性質を理解する。</li> <li>金属結合は自由電子が介在した結合であることを理解する。</li> <li>金属結合でできた物質の性質を理解する。</li> </ul>
	2学期	第2章 物質の変化 第1節 物質と化学反応式 第2節 酸・塩基とその反応	<ul style="list-style-type: none"> <li>粒子の数にもとづく量の表し方である物質の概念を導入し、物質と質量、物質と気体の体積との関係について理解する。</li> <li>化学反応に関する実験などを行い、化学反応式が化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを見いだして理解する。</li> <li>酸や塩基に関する実験などを行い、酸と塩基の性質および中和反応に関与する物質の量的関係について理解する。</li> </ul>
	3学期	第3節 酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> <li>酸化還元反応が電子の授受によることを理解する。</li> </ul>

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査</li> <li>ワークシート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査</li> <li>ワークシート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題</li> <li>授業ノート</li> <li>ワークシート</li> <li>観察</li> </ul>



教科	保健体育	科目	体育	単位数	2
教科書（出版社）	現代高等保健体育（改訂版）（大修館）				
副教材（出版社）	現代高等保健体育ノート（改訂版） ステップアップスポーツ2024				
授業の概要	各学期に種目を選択し実技を行う。授業展開としては集合・整列・挨拶、準備運動、補強運動、主動、整理運動、集合・整列・挨拶という流れとなる。体育理論も行う。				
授業の目標	主体的に運動に親しみ、仲間と協力して取り組むことにより、基礎体力の向上、協調性、ルールを遵守することの大切さを身に付ける。				

	学期	学習内容（単元・項目）	学習目標
年間学習計画	1学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○集団行動</li> <li>○体づくり運動</li> <li>○ラジオ体操</li> <li>○選択種目Ⅰ               <ul style="list-style-type: none"> <li>・陸上競技 ・器械運動 ・ダンス</li> </ul> </li> <li>から1種目を選択</li> <li>○体育理論               <ul style="list-style-type: none"> <li>2 単元 運動・スポーツの学び方</li> <li>1 スポーツにおける技能と体力</li> <li>2 スポーツにおける技術と戦術</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素早く正確に指示通りに行動することができる。</li> <li>・自分や仲間の体と心の変化に気付くことができる。</li> <li>・各種目特性を理解して、自ら積極的に取り組むことができる。また意欲的に技術や戦術の向上を目指して運動に親しむことができる。</li> <li>・ルールを理解して、公正な態度で授業に取り組むことができる。</li> <li>・仲間と協力して準備や片付けを行うことができる。</li> <li>・安全に配慮した行動がとれるようになる。</li> </ul>
	2学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○選択種目Ⅱ・Ⅲ               <ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道 ・ソフトボール</li> <li>・ハンドボール ・サッカー</li> <li>・バレーボール ・バドミントン</li> </ul> </li> <li>から前・後半各1種目の計2種目を選択</li> <li>○体育理論               <ul style="list-style-type: none"> <li>3 技能の上達過程と練習</li> <li>4 効果的な動きのメカニズム</li> <li>5 体力トレーニング</li> <li>6 運動やスポーツでの安全確保</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種目特性を理解して、自ら積極的に取り組むことができる。また意欲的に技術や戦術の向上を目指して運動に親しむことができる。</li> <li>・ルールを理解して、公正な態度で授業に取り組むことができる。</li> <li>・仲間と協力して準備や片付けを行うことができる。</li> <li>・安全に配慮した行動がとれるようになる。</li> <li>・発揮する状況の違いによって技術の種類が違うことを理解する。</li> <li>・技能の上達過程の段階や特徴及び目的に即した効果的な練習方法あることを理解する。</li> <li>・効果的な体力トレーニングの方法を理解する。</li> <li>・活動に伴う危険性を理解し健康や安全に配慮できる。</li> </ul>
	3学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○選択種目Ⅳ               <ul style="list-style-type: none"> <li>・卓球 ・硬式テニス</li> <li>・バスケットボール</li> </ul> </li> <li>から1種目を選択</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種目特性を理解して、自ら積極的に取り組むことができる。また意欲的に技術や戦術の向上を目指して運動に親しむことができる。</li> <li>・ルールを理解して、公正な態度で授業に取り組むことができる。</li> <li>・仲間と協力して準備や片付けを行うことができる。</li> <li>・安全に配慮した行動がとれるようになる。</li> </ul>

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の特性や技能の要点を知っている。</li> <li>・ルールを理解し、審判や係の仕事を行うことができる。</li> <li>・運動の特性に応じた技能を身に付けることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技能の要点を意識した練習ができる。</li> <li>・課題解決に向けて練習計画を立てることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の特性に関心を持ち、楽しさや喜びを味わおうとしている。</li> <li>・練習場や用具などの安全を確かめようとしている。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察、ノート</li> <li>・ワークシート</li> <li>・ペーパーテスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察、ノート</li> <li>・ワークシート</li> <li>・ペーパーテスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察、ノート</li> <li>・ワークシート</li> <li>・ペーパーテスト</li> </ul>



教科	保健体育	科目	保健	単位数	1
教科書（出版社）	現代高等保健体育（改訂版）（大修館）				
副教材（出版社）	現代高等保健体育ノート（改訂版）				
授業の概要	教科書の内容を中心に講義を展開していく。教科書読みや質疑応答、ペアディスカッションなどをおしながら知識の理解を深めていく。ノートを使いながらまとめを行う。				
授業の目標	社会情勢の急速な変化に対応し、生涯を通じて重要な土台となる健康について、これから生きていく社会の中で考えていける力を身に付ける。				

	学期	学習内容（単元・項目）	学習目標
年間 学 習 計 画	1 学 期	3単元 生涯を通じる健康 1 ライフステージと健康 2 思春期と健康 3 性意識と性行動の選択 4 妊娠・出産と健康 5 避妊法と人工妊娠中絶 6 結婚生活と健康 7 中高年期と健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思春期における心身の発達や健康課題について特に性的成熟に伴い、心理面、行動面が変化することについて理解する。</li> <li>・健康な結婚生活について、それぞれの心身の発達や健康状態を知ることの大切さを理解する。また、妊娠、出産に伴う健康課題について理解し、適切に対処する方法を理解する。</li> <li>・加齢に伴う心身の変化について、形態面及び機能面などの側面から理解する。高齢社会の到来に対応して、保健、医療、福祉の連携と総合的な対策が必要であると理解する。</li> </ul>
	2 学 期	8 働くことと健康 9 労働災害と健康 10 健康的な職業生活 4単元 健康を支える環境づくり 1 大気汚染と健康 2 水質汚濁・土壌汚染と健康 3 環境と健康にかかわる対策 4 ごみの処理と上下水道の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働くことの意義を理解する。労働災害の防止には作業形態や作業環境の改善を含む健康管理と安全管理が必要であると理解する。</li> <li>・人間の生活や産業活動に伴う大気汚染、水質汚濁、土壌汚染について健康への悪影響や被害をもたらすことを理解する。</li> <li>・環境対策について法的な整備を始め、総合的で計画的な対策が講じられていることを理解する。</li> </ul>
	3 学 期	5 食品の安全性 6 食品衛生にかかわる活動 7 保健サービスとその活用 8 医療サービスとその活用 9 医薬品の制度とその活用 10 さまざまな保健活動や社会的対策 11 健康に関する環境づくりと 社会参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品の安全性を確保するように基準が設定され、それに基づき食品衛生活動が行われていることを理解する。</li> <li>・人々の健康を守るための保健・医療制度があることを理解する。どのようなサービスが提供され、その情報をどのように知ることができるかを理解する。</li> <li>・医薬品の種類について理解し、主作用や副作用などの医薬品個々の特性があることを理解する。</li> </ul>

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
規 準	生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題解決に役立つ基礎的な事項を理解し知識を身に付けている。その知識を実生活に結び付けて活用することができる。	個人及び社会生活における健康や安全に関する課題解決を目指して、総合的に考え、選択すべき行動を適切に判断することができる。	個人及び社会生活における健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践するため、意欲的に学習に取り組もうとする。

評価方法 観察、発表、ノート、ワークシート、ペーパーテスト



教科	英語	科目	英語コミュニケーションI	単位数	3
----	----	----	--------------	-----	---

教科書 (出版社)	VISTA English Communication I (三省堂)
副教材 (出版社)	VISTA English Communication I WORKBOOK(三省堂) 改訂版 WORD-MEISTER 英単語・熟語 1700(第一学習社) 改訂版 WORD-MEISTER 英単語・熟語 1700 Training Note②(第一学習社)
授業の概要	題材となる英文を読みながら、その内容を理解するとともに、主な表現に焦点をあてて英語のコミュニケーション場面での表現を学習する。
授業の目標	英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり伝えたりする基礎的な能力を養う。

年間学習計画	学期	学習内容 (単元・項目)	学習目標
	1 学期	Get Ready 1 Get Ready 2 Get Ready 3 Get Ready 4 Lesson 1 Colors of spring Lesson 2 Dick Bruna Lesson 3 Interesting sports	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年次の復習を兼ねてアルファベット、身の回りの生活に関する基本的な単語を学ぶ。</li> <li>辞書の使い方を学ぶ。</li> <li>春について述べられている文を読み、春のイメージカラーの国による違いや、世界各地への文化の広がりについて考える。</li> <li>ミッフィーの作者であるディック・ブルーナについての話を読み、彼の作り上げたキャラクターや本についての理解を深める。</li> <li>面白いスポーツについての話を読み、自分が挑戦してみたい競技について考える。現在進行形・過去進行形を用いて、現在と過去の自分の状況や活動について、描写し相手に伝えることができる。</li> </ul>
	2 学期	Lesson 4 Pictograms Lesson 5 We Are Part of Nature Lesson 6 Machu Picchu Lesson 7 Artificial Intelligence Lesson 8 There a Santa Claus?	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピクトグラムについて図や説明文を読み取り、その概要を理解するとともに、内容について、自分の考えを簡潔に表現できる。</li> <li>ある動物写真家について説明した文を読み、自然保護についての理解を深め、自分の考えを簡潔に表現できる。</li> <li>世界遺産マチュピチュについて説明した文を読み、その概要を理解することができる。</li> <li>受け身表現について正確に理解し、ロボットやAI 機器についての基本的な知識を問う質問に答えることができる。</li> <li>サンタクロースについて説明した文章を読み、その概要を理解するとともに、読み取った内容について、自分の考えを簡潔に表現できる。</li> </ul>
	3 学期	Lesson 9 Kid's Guernica Lesson 10 Ethical Fashion	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲルニカについて説明した文章を読み、その概要を理解することができる。</li> <li>エシカルファッションについて説明した文章を読み、その概要を理解するとともに、読み取った内容について、自分の考えを簡潔に表現できる。</li> </ul>

### 学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規準	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 外国語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価 方法	活動観察 ワークシート・振り返りシート 定期考査	活動観察 スピーチ・エッセイ 定期考査	活動観察 プレゼンテーション





科	家庭科 (2年)	科目	家庭総合	単位数	2
教科書 (出版社)	未来へつなぐ 家庭総合365 (教育図書)				
副教材 (出版社)	L I F E おとなガイド デジタル+ (教育図書) 学習ノート (教育図書)				
授業の概要	一人の生活者として自立していくために知識と技術の習得 (家族・家庭 社会生活 (高齢者・社会保障) 生活設計 消費生活 衣生活)				
授業の目標	人の一生と家族・家庭、福祉、社会保障、消費生活、衣生活に関する知識と技術を体験的に習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。				

学期	学習内容 (単元・項目)	学習目標
年間 学 習 計 画	1 学 期  A編 第1章 生涯の生活設計1 1節 あなたの将来、どうする？ 第2章 青年期の自立と家族・家庭 1節 自立への一歩を踏み出そう 2節 家族・家庭って何？ 3節 将来の自分と家庭を想像する  B編 第2章 衣生活と健康 3節 自分で衣服をつくってみよう (基礎縫い)  C編 第1章 生活における経済の計画 1節 将来に向けて家計を考えよう 2節 将来の経済計画を立ててみよう 第2章 消費生活と意思決定 第3章 持続可能なライフスタイルと環境  A編 第4章 高齢期の生活と福祉 1節 高齢期ってどういう時期？ (認知症サポーター養成講座)  ホームプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人が自分らしく生きるために、生涯を見通し、一生について考える。</li> <li>時代とともに変化する家族・家庭の意義や機能を理解し、家族に関する法律を学習する。</li> <li>消費活動において自立した行動ができる。</li> <li>高齢社会の現状や介護保険制度のしくみ、社会保障制度や社会福祉について知り、地域での助け合い活動を理解する。</li> <li>生活課題を見つけ、解決する方法を探る。</li> </ul>
	2 学 期  ホームプロジェクト 発表 A編 第4章 高齢期の生活と福祉 3節 高齢化する日本を生きる 第5章 共生社会と福祉 1節 共生ってなんだろう？ 2節 ノーマライゼーションとは  B編 第2章 衣生活と健康 1節 衣服の役割って何だろう？ 2節 衣服はどうやってつくられている？ 3節 自分で衣服をつくってみよう (袋、エプロン製作)  冬休み課題 刺し子	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活課題を見つけ、解決する方法を探る。</li> <li>高齢社会の現状や介護保険制度のしくみ、社会保障制度や社会福祉について知り、地域での助け合い活動を理解する。</li> <li>衣服の機能や役割について理解し、衣服素材の種類や繊維の特徴を理解し用途に応じた衣服選択や管理ができるようにする。作品製作を通じて、裁縫技術を習得する。</li> </ul>
	3 学 期  B編 第2章 衣生活と健康 3節 自分で衣服をつくってみよう (ランチョンマット製作) 4節 衣服の計画・管理を知ろう 5節 今後の衣生活を考えよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>衣服の機能や役割について理解し、衣服素材の種類や繊維の特徴を理解し用途に応じた衣服選択や管理ができるようにする。</li> </ul>

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	人の一生、家族・家庭、衣生活など生活を健康で安全に営む基本的な知識を習得し、家庭や社会の一員としての望ましい心構えについて理解することができる。 生活に関する課題を解決するための必要な基礎的技術を身に付け適切に活用することができる。	自分や家族・家庭、地域の生活にかかわる課題を見つけ、課題解決のため思考を深め、工夫したり創造したりし、自分の考えをまとめ判断できる能力を身に付けている。課題解決の学習活動で導き出した考えを的確に表現することができる。	人の一生、家族・家庭、衣生活などに関心をもち、家庭や地域への適切な対応を目指して主体的・意欲的に取り組み、実践的な態度を身に付けようとしている。
評価 方 法	定期考査 学習ノート 実技テスト	定期考査 学習ノート 実習作品	学習態度 学習ノート 課題の提出状況



教科	商業	科目	財務会計Ⅰ	単位数	4
教科書(出版社)	新財務会計Ⅰ(実教出版)				
副教材(出版社)	反復式 会計問題集 全商1級 会計(実教出版)				
授業の概要	財務諸表の作成に関する知識と技術を習得させ、財務会計の意義や制度について理解させるとともに会計情報を提供し、活用する能力を育てる。				
授業の目標	(1) 財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2) 企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題対応するとともに、会計的側面から企業を分析する力を養う。 (3) 会計責任を果たす力の工場を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				

年間 学 習 計 画	学期	学習内容(単元・項目)	学習目標
	1 学 期	第1編 財務会計の基礎 1章 企業と会計 2章 企業会計制度と会計法規 第2編 貸借対照表 3章 貸借対照表のあらまし 4章 資産の意味・分類・評価 5・6章 流動資産 7・8・9章 固定資産 10章 負債の意味と分類 11章 流動負債 12章 固定負債	<ul style="list-style-type: none"> <li>財務会計の機能及び株式会社の基礎的な会計処理について学ぶ。</li> <li>企業会計制度(原則)の意味を明らかにし、会計法規について学ぶ。</li> <li>貸借対照表の意味と役割を理解し、資産の評価の意味と損益計算との関係について学ぶ。</li> <li>流動資産・固定資産の意味と種類、各種計算方法について学ぶ。</li> <li>負債の意味と分類について、基礎的知識を学ぶ。</li> <li>流動負債・固定負債の各項目の内容を理解し、正確に会計処理する方法について学ぶ。</li> </ul>
	2 学 期	13章 純資産の意味と分類 14章 資本金 15章 資本剰余金 16章 利益剰余金 17章 自己株式 18章 新株予約権 19章 貸借対照表の作成 第3編 損益計算書 20章 損益計算書のあらまし 21章 損益計算書の意味と基準 22章 売上高 23章 売上原価、販売費及び一般管理費 24章 営業外費用・営業外収益 25章 特別利益・特別損失 26章 損益計算書の作成 27章 その他の財務諸表 第4編 その他の会計処理 28章 役員収益・役員原価	<ul style="list-style-type: none"> <li>純資産の意味と分類を明らかにし、内容について学ぶ。</li> <li>株式会社の資本金の意味と計算について学ぶ。</li> <li>資本剰余金・利益剰余金の意味を明らかにし、その処理方法を学ぶ。</li> <li>自己株式の意味を理解し、その取得・処分・消却の会計処理を学ぶ。</li> <li>新株予約権の意味を理解し、その発行・行使の会計処理を学ぶ。</li> <li>貸借対照表の諸原則を明らかにし、その作成方法を学ぶ。</li> <li>損益計算書の役割と区分・様式を正しく学ぶ。</li> <li>損益計算書の意味と基準について学ぶ。</li> <li>売上高の意味を理解し、適切な会計処理を学ぶ。</li> <li>売上原価、販売費及び一般管理費の適切な会計処理を学ぶ。</li> <li>営業外費用・営業外収益の意味を理解し、適切な会計処理を学ぶ。</li> <li>特別利益・特別損失の意味と内容を理解し、適切な会計処理を学ぶ。</li> <li>報告式の損益計算書の作成方法について学ぶ。</li> <li>株主資本等変動計算書の意味を理解し、作成方法について学ぶ。</li> <li>役員収益と役員原価の意味を理解し、適切な会計処理を学ぶ。</li> </ul>
	3 学 期	29章 外貨建取引 30章 税効果会計 第5編 財務諸表の活用 31章 財務諸表のディスクロージャー 32章 財務諸表分析 33章 連結財務諸表のあらまし 34章 連結財務諸表の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>外貨建取引や税効果会計の意味を理解し、適切な会計処理について学ぶ。</li> <li>企業と利害関係者及びディスクロージャー、財務諸表分析の意味と方法について学ぶ。</li> <li>連結財務諸表とはどのようなものか正しく理解し、作成方法を学ぶ。</li> </ul>

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	財務諸表の作成に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、財務会計の意義や制度について理解し、会計情報を提供し、活用することを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	会計情報を提供し、活用することを目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	財務諸表の作成について関心をもち、その諸活動への適切な対応を目指して主体的に取り組もうとするとともに、財務会計の意義や制度についての理解や実践的な態度を身に付けている。
評価 方 法	ワークシート ペーパーテスト(定期考査、小テスト)	ワークシート ペーパーテスト(定期考査、小テスト)	ワークシート



教科	商業	科目	ソフトウェア活用	単位数	4
教科書（出版社）	ソフトウェア活用（東京法令出版）				
副教材（出版社）	令和6年度版 全商情報処理検定試験模擬問題集ビジネス情報2級（実教出版）				
授業の概要	ビジネスに関する情報を表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアを利用して管理、分析、活用する知識や技術の習得。				
授業の目標	(1)企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2)企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。 (3)企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。				

年間学習計画	学期	学習内容（単元・項目）	学習目標
	1学期	(1) 企業活動におけるソフトウェア活用 (2) 表計算ソフトウェアの活用 ア 情報の集計 イ 情報の分析 ウ シミュレーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例「レストラン egg」の概要を確認し、企業はどのような活動をし活動を支えるソフトウェアにはどのようなものがあるのかを理解する。</li> <li>データを使用目的にあわせて集計するための方法、分析方法について学習する。</li> <li>コンピュータで模擬的に試行(シミュレーション)して予測をするための方法について学習する。</li> </ul>
	2学期	(3) オペレーションズリサーチ (4) 手続きの自動化 (5) データベースの重要性 (6) リレーショナルデータベースの概要と設計 (7) データベースの作成と操作 (8) 表計算ソフトウェアによる情報システムの開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>集計、分析データを活用して経営に関する問題発見、解決策を見つける手法について学習する。</li> <li>繰り返し実行操作の自動化方法を学習する。</li> <li>データベースの概要や重要性について学習する。</li> <li>データの正規化とE-Rモデルについて学習する。</li> <li>商品管理についてのデータベースを作成するための方法、プログラミング機能を利用してシステム開発をするための方法について学習する。</li> </ul>
	3学期	(9) グループウェアの活用 (10) 給与計算ソフトウェアの活用 (11) 仕入・販売管理ソフトウェアの活用 (12) 情報通信ネットワークの導入と運用 (13) 情報資産の保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織内の情報共有やスケジュール管理に利用されるグループウェアについて学習する。</li> <li>給与や所得税・健康保険料などの計算に利用される給与計算ソフトウェアについて学習する。</li> <li>仕入・販売管理ソフトウェアについて学習する。</li> <li>情報通信機器の特徴や、インターネットへの具体的な接続方法について学習する。</li> <li>情報資産を保護する重要性や方法について学習する。</li> </ul>

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	実務と関連付けて、ビジネスのさまざまな場面で役に立つソフトウェアの効果的な活用に関する知識と技術を身に付けている。	ソフトウェア活用のさまざまな知識、技術を活用して、企業活動における課題を発見しようとし、企業活動に及ぼす影響を踏まえ、最適な解を導き出し、よりよく解決しようとしている。	自らソフトウェアの活用について学ぶ態度を身に付け、組織の一員として自己の役割を認識して、他者との積極的な関わりから、責任をもって取り組む態度を身に付けている。
評価方法	ペーパーテスト (定期考査、小テスト) パフォーマンス課題	ペーパーテスト (定期考査、小テスト) パフォーマンス課題	小テスト、取組姿勢 パフォーマンス課題



教科	商業	科目	プログラミング	単位数	4
----	----	----	---------	-----	---

教科書 (出版社)	プログラミング (東京法令出版)
-----------	------------------

副教材 (出版社)	学習と検定 全商情報処理検定テキスト 2級・1級プログラミング部門 (実教出版) 全商情報処理検定 模擬試験問題集 プログラミング 2級・1級 (実教出版)
-----------	---

授業の概要	プログラミングに関する知識と技術を習得し、プログラムの役割や重要性について理解するとともに、ビジネスの諸活動においてコンピュータを合理的に活用する能力と態度を育てる。
-------	---

授業の目標	アルゴリズムについて思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現できるようにする。
-------	--

年	学期	学習内容 (単元・項目)	学習目標
年間学習計画	1学期	第1章 情報システムの重要性 第1節 情報システムとプログラム 第2節 情報システムの活用  第2章 ハードウェアとソフトウェア 第1節 ハードウェアの機能と動作 第2節 ソフトウェアの体系と役割  第3章 アルゴリズムの表現技法とデータ構造 第1節 アルゴリズムの表現技法 第2節 データ構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報システムの概要を理解し、プログラムの役割やプログラミングの意義について学ぶ。</li> <li>企業活動を支えている情報システムの有用性について学ぶ。</li> <li>ハードウェアとソフトウェアについて学び、関連する技術を身に付ける。</li> <li>情報システムを開発するためのハードウェアとソフトウェアの効果的な活用方法を学ぶ。</li> <li>アルゴリズムについて学び、関連する技術を身に付ける。</li> <li>コンピュータで取り扱われるデータの形式(データ構造)について学ぶ。</li> </ul>
	2学期	第4章 手続き型言語のプログラミング 第1節 プログラミングの手順 第2節 データの入出力と演算 第3節 条件判定と繰り返し処理 第4節 配列の利用  第5章 プログラムと情報システムの開発 第1節 情報システム開発の手順と手法 第2節 プロジェクト管理 第3節 情報システムの評価と改善 第4節 情報システム開発と法規等	<ul style="list-style-type: none"> <li>手続き型言語のプログラミングについて学び、関連する技術を身に付ける。</li> <li>表計算ソフトウェアのプログラミング機能を利用して、実際にプログラムを作成して実行する。</li> <li>開発手順、プロジェクト管理、情報システムの評価、著作権の保護など、プログラムや情報システムを開発するために必要な知識や技術について学ぶ。</li> </ul>
	3学期	第6章 手続き型言語を用いた情報システムの開発 第1節 情報システムの開発演習① 第2節 情報システムの開発演習②  第7章 オブジェクト指向型言語のプログラミング 第1節 オブジェクト指向型言語 第2節 UMLによる図解表現 第3節 オブジェクト指向型言語を使ったアプリ開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでに学習してきたことを活用して、実際に情報システムを開発する。</li> <li>アプリ開発向けのオブジェクト指向型言語に関する基本的な知識や技術について学ぶ。</li> </ul>

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	マクロ言語学習を通して、プログラミングに関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付け、アルゴリズムの意義や役割について理解している。	マクロ言語学習を通して、アルゴリズムについて思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現している。	プログラミングについて関心をもち、企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、コンピュータの合理的な活用方法について主体的に探究しようとしている。
評価方法	ワークシート ペーパーテスト (定期考査、小テスト)	ワークシート ペーパーテスト (定期考査、小テスト) パフォーマンス課題	ワークシート パフォーマンス課題



教科	商 業	科目	ソフトウェア活用	単位数	3
教科書（出版社）	ソフトウェア活用（東京法令出版）				
副教材（出版社）	令和6年度版 全商情報処理検定試験模擬問題集ビジネス情報2級（実教出版）				
授業の概要	ビジネスに関する情報を表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアを利用して管理、分析、活用する知識や技術の習得。				
授業の目標	(1)企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2)企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。 (3)企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。				

年間学習計画	学期	学習内容（単元・項目）	学習目標
	1学期	(1) 企業活動におけるソフトウェア活用 (2) 表計算ソフトウェアの活用 ア 情報の集計 イ 情報の分析 ウ シミュレーション	・事例「レストラン egg」の概要を確認し、企業はどのような活動をし、活動を支えるソフトウェアにはどのようなものがあるのかを理解する。 ・データを使用目的にあわせて集計するための方法、分析方法について学習する。 ・コンピュータで模擬的に試行（シミュレーション）して予測をするための方法について学習する。
	2学期	(3) オペレーションズリサーチ (4) 手続きの自動化 (5) データベースの重要性 (6) リレーショナルデータベースの概要と設計 (7) データベースの作成と操作 (8) 表計算ソフトウェアによる情報システムの開発	・集計、分析データを活用して経営に関する問題発見、解決策を見つける手法について学習する。 ・繰り返し実行操作の自動化方法を学習する。 ・データベースの概要や重要性について学習する。 ・データの正規化とE-Rモデルについて学習する。 ・商品管理についてのデータベースを作成するための方法、プログラミング機能を利用してシステム開発をするための方法について学習する。
	3学期	(9) グループウェアの活用 (10) 給与計算ソフトウェアの活用 (11) 仕入・販売管理ソフトウェアの活用 (12) 情報通信ネットワークの導入と運用 (13) 情報資産の保護	・組織内の情報共有やスケジュール管理に利用されるグループウェアについて学習する。 ・給与や所得税・健康保険料などの計算に利用される給与計算ソフトウェアについて学習する。 ・仕入・販売管理ソフトウェアについて学習する。 ・情報通信機器の特徴や、インターネットへの具体的な接続方法について学習する。 ・情報資産を保護する重要性や方法について学習する。

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	実務と関連付けて、ビジネスのさまざまな場面で役に立つソフトウェアの効果的な活用に関する知識と技術を身に付けている。	ソフトウェア活用のさまざまな知識、技術を活用して、企業活動における課題を発見しようとし、企業活動に及ぼす影響を踏まえ、最適な解を導き出し、よりよく解決しようとしている。	自らソフトウェアの活用について学ぶ態度を身に付け、組織の一員として自己の役割を認識して、他者との積極的な関わりから、責任をもって取り組む態度を身に付けている。
評価方法	ペーパーテスト （定期考査、小テスト） パフォーマンス課題	ペーパーテスト （定期考査、小テスト） パフォーマンス課題	小テスト、取組姿勢 パフォーマンス課題



教科	商業	科目	マーケティング	単位数	3
教科書 (出版社)	マーケティング (実教出版)				
副教材 (出版社)	マーケティング準拠問題集、全商商業経済検定模擬試験問題集 1・2級 マーケティング (実教出版)				
授業の概要	マーケティング・マネジメントのプロセスに沿って、マーケティングの各段階で思考・判断・表現する力を身に付け、マーケティング技法を習得する。				
授業の目標	ビジネスを適切に展開して企業の社会的責任を果たす視点を持ち、マーケティングの考え方の広がりに対応し、マーケティングについて組織の一員としての役割を果たすことができる資質や能力を養う。				

	学期	学習内容 (単元・項目)	学習目標
年間 学 習 計 画	1 学 期	(1) マーケティングの概要 ア マーケティングの歴史と発展 イ 現代の市場とマーケティング ウ マーケティング環境の分析 エ マーケティング・マネジメント (2) 消費者行動の理解 ア 消費者の心理と行動の関係 イ 購買意思決定過程 ウ 消費者行動に影響を与える要因 (3) 市場調査 ア 市場調査の概要 イ 市場調査の手順 ウ 仮説検証の手順 エ 実態調査の方法 (4) STP ア セグメンテーション イ ターゲティング ウ ポジショニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>マーケティングコンセプトを学習する。</li> <li>情報環境の変化がもたらすマーケティングを学習する。</li> <li>マーケティング環境を分析する適切な手法を学習する。</li> <li>マーケティング・マネジメントのプロセスを学習する。</li> <li>消費者の購買意思決定過程の流れを学習する。</li> <li>消費者の意思決定の過程と消費者心理の変化を学習する。</li> <li>消費者行動に影響を与える要因を学習する。</li> <li>市場調査の種類を学習する。</li> <li>市場調査の手順を学習する。</li> <li>調査計画を立案し、得た情報を科学的に分析する方法を学習する。</li> <li>調査に必要な情報収集の仕方を学習する。</li> <li>セグメンテーションの意味と用いられる変数や有効条件を学習する。</li> <li>ターゲットを発見し、論理的にセグメントを絞る方法を学習する。</li> <li>STPを総合的に整理し、ターゲットに見合ったポジショニングを考える方法を学習する。</li> </ul>
	2 学 期	(5) 製品政策 ア 製品政策の概要 イ 新製品開発 ウ 販売計画と生産計画 エ 製品政策の動向 (6) 価格政策 ア 価格政策の概要 イ 価格の設定方法 ウ 価格政策の動向 (7) チャネル政策 ア チャネル政策の概要 イ チャネルの選択と管理 ウ チャネル政策の動向 (8) プロモーション政策 ア プロモーション政策の概要 イ プロモーションの種類 ウ プロモーション政策の動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品の分類の仕方と製品政策の手法と留意点を学習する。</li> <li>身近な製品ブランドを見つけ、新製品開発に必要なプロセスについて学習する。</li> <li>売上目標や販売予測の計算方法と販売計画に必要な要素を学習する。</li> <li>ブランドの役割と身近な企業のブランド要素やイメージを学習する。</li> <li>価格の種類が分類をし、消費者が価格について持つイメージを学習する。</li> <li>適切な価格設定方法と計算方法を学習する。</li> <li>過去と近年の価格政策を比べ、メリットとデメリットを学習する。</li> <li>商品やチャネル政策の違いについて学習する。</li> <li>企業形態や商品など条件や状況に応じた適切なチャネルを学習する</li> <li>製販連携についての取り組みと身近なPB商品の展開を学習する。</li> <li>プロモーションの手法と消費者の反応段階を学習する。</li> <li>プロモーションの種類や手法と広告制作を学習する。</li> <li>身近なメディアのプロモーション政策からどのような効果があるかを学習する。</li> </ul>
	3 学 期	(9) マーケティングのひろがり ア さまざまなマーケティング戦略 イ サービス・マーケティング ウ 小売マーケティング エ 観光地マーケティング オ グローバル・マーケティング カ ソーシャル・マーケティング	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品のライフサイクルや市場地位に応じたマーケティング戦略を学習する。</li> <li>身近なサービスエンカウンターからサービスマーケティングの7Pを学習する。</li> <li>企業や店舗で行われている小売業のマーケティングの工夫について学習する。</li> <li>各地域の観光地をマーケティングするためのデータを整理方法と地域の魅力を発信する方法を学習する。</li> <li>各国の文化の違いや世界から見た日本のイメージによって行われているマーケティングを学習する。</li> <li>非営利組織のマーケティングと社会的責任のマーケティングを学習する。</li> </ul>

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、ビジネスの様々な場面で役に立つマーケティングについて、関連する知識と技術を身に付けている。	マーケティングに関する課題を発見し、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識を持ち、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価 方 法	ペーパーテスト (定期考査) ペーパーテスト (小テスト)	ペーパーテスト (定期考査) ワークシート レポート グループワーク	ワークシート レポート グループワーク



教科	商業	科目	ビジネス・マネジメント	単位数	3
教科書 (出版社)	ビジネス・マネジメント (実教出版)				
副教材 (出版社)	ビジネス・マネジメント 準拠問題集 (実教出版)				
授業の概要	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるマネジメントに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
授業の目標	(1) ビジネスにおけるマネジメントについて実務に即して体系的・系統的に理解するようにする。 (2) ビジネスにおけるマネジメントに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるマネジメントに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				

	学期	学習内容 (単元・項目)	学習目標
年間学習計画	1学期	Introduction 1 マネジメントとは何か 2 『ビジネス・マネジメント』とは  1章 ビジネスの創造 1 ビジネスの創造と社会 2 事業創造の基本 3 事業機会の発見 4 戦略と競争優位 5 事業創造の計画と実行 Feature ビジネス・モデル  2章 ビジネスの組織化 1 組織のマネジメント 2 分業と調整 3 組織の設計 4 組織内部のマネジメント 5 取引関係のマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しいビジネスの創造という活動を軸にして、さまざまな科目と相互に関連する総合的な科目であることを理解する。</li> <li>ビジネスにおけるマネジメントの概要を理解するとともに、マネジメントの意義と課題について自らの考えをもち、ビジネスの適切な展開と関連付けて学ぶ。また、マネジメントについての意識と意欲を高め、組織の一員として他者と協働する力を身に付ける。</li> <li>組織のマネジメントについて企業における事例と関連付けて理解し、組織の管理と活性化の方策を考案して実施し、評価・改善をおこなう。また、自ら学び、組織の一員として組織の適切な管理と活性化について、他者と協働する力を身に付ける。</li> </ul>
	2学期	3章 経営資源のマネジメント 1 財務的資源のマネジメント 2 人的資源のマネジメント 3 物的資源のマネジメント 4 情報的資源のマネジメント  4章 ビジネスの変革 1 ビジネスの拡大 2 多角化の動機 3 多角化企業のマネジメント 4 事業の転換	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営資源のマネジメントについて企業における事例と関連付けて理解し、経営資源の管理と活用の方策を考案して実施し、評価・改善をおこなう。また、経営資源の適切な管理と効果的な活用について、他者と協働する力を身に付ける。</li> <li>ビジネスの創造と展開について企業における事例と関連付けて理解し、計画を立案して実施し、評価・改善をおこなう。また、ビジネスの創造と展開について自ら学び、プロジェクトを適切に管理し、他者と協働する力を身に付ける。</li> </ul>
	3学期	5章 ビジネスと社会 1 社会における企業 2 企業への支援 3 企業の責任 4 企業への牽制	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業の秩序と責任について企業における事例と関連付けて理解し、企業の秩序の維持と責任を果たす方策を考案して実施し、評価・改善をおこなう。企業の秩序を維持し、責任を果たすことについて、他者と協働する力を身に付ける。</li> </ul>

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	ビジネスにおけるマネジメントについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つマネジメントに関する知識を身に付けている。	ビジネスにおけるマネジメントをはじめとした様々な知識などを活用し、ビジネスにおけるマネジメントに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、経済社会の動向、マネジメントに関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らマネジメントについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、経営資源のマネジメント、新たなビジネスの創造と展開などに責任をもって取り組もうとしている。
評価方法	ペーパーテスト ワークシート (定期考査、小テスト) 実習	ペーパーテスト ワークシート (定期考査、小テスト) 実習	ワークシート 実習



教科	商業	科目	商品開発と流通	単位数	3
教科書 (出版社)	商品開発と流通 (実教出版)				
副教材 (出版社)	商品開発と流通 準拠問題集 (実教出版)				
授業の概要	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、商品開発と流通に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
授業の目標	(1) 商品開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 商品開発と流通に関する議題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、商品開発と流通に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
年間学習計画	学期	学習内容 (単元・項目)		学習目標	
	1学期	1章 商品開発と流通の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品開発の意義、新商品の捉え方、商品ライフサイクルについて理解し、商品開発の手順について学習する。流通の仕組みについて、市場環境とマーケティングの変化、流通チャネルの多様化について学習する。</li> <li>商品仕様と詳細設計について、企業における事例と関連付けて学習する。プロトタイプを用いて課題を明らかにし、コンピュータを用いて商品デザインを行う。ブランドについて、機能、構成要素等を理解し、知的財産権の重要性を学習する。</li> </ul>		
		1 私たちの生活と商品 2 商品開発の意義と手順 3 商品と流通の関わり			
	2学期	4章 商品の開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品の企画に必要な環境分析について学習する。また、環境分析に基づいて、商品の企画に関する課題を発見する。ブレインストーミングなどの技法を用いて、商品企画につながるアイデアを考える。商品コンセプトを考察し、具体的に商品企画書の各項目をまとめ、それを基にプレゼンテーションの技術を身に付ける。</li> <li>商品開発と流通における事業計画について、その目的や手順について学習する。価格設定の考え方を理解し、さまざまな価格政策について考察する。流通チャネル、プロモーション計画について事例を関連付けて理解し、事業計画書の作成について学習する。</li> </ul>		
		1 商品仕様と詳細設計 2 プロトタイプ 3 商品とデザイン 4 ブランド			
		5 知的財産権の登録			
3学期	2章 商品の企画	<ul style="list-style-type: none"> <li>販売員活動における、セールスプロモーションについて学び、実習を行い理解する。</li> <li>顧客ニーズの多様化から、情報システムの変化が流通に及ぼす影響について理解し、感覚を活かしたプロモーション活動を、事例と関連付けて学習する。</li> </ul>			
	1 環境分析と意思決定の準備 2 市場調査 3 商品コンセプトの策定 4 商品企画の提案				
	3章 事業計画の立案				
		1 事業計画の概要 2 価格計画 3 流通計画 4 プロモーション計画 5 事業計画書の作成			
		5章 商品の販売			
		1 販売員活動 2 セールスプロモーション			
		6章 商品の流通に関わる新たな展開			
		1 商品開発の新たな展開 2 流通の新たな展開 3 感覚を活かした商品開発・流通			
学習の評価					
観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
評価規準	商品開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解し、商品の企画からプロモーションまでの様々な場面で役に立つ商品開発に関する知識と、流通の立場から捉えた取引対象としての商品に関する知識を身に付けている。		商品開発と流通をはじめとした様々な知識や情報などを活用し、商品開発と流通の動向や課題を発見するとともに、ビジネスに関わる様々な立場に立って、妥当性と課題などの視点から、科学的な根拠に基づいて商品開発と流通に関する計画を立案したり、提案したりしている。		ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら商品開発と流通について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他社と信頼関係を構築して積極的に関わり、商品開発と流通に関する学習活動に責任をもって取り組もうとしている。
評価方法	ペーパーテスト ワークシート (定期考査、小テスト) 実習		ペーパーテスト ワークシート (定期考査、小テスト) 実習		ワークシート 実習





教科	商業	科目	財務会計 I	単位数	3
教科書 (出版社)	新財務会計 I (実教出版)				
副教材 (出版社)	反復式 会計問題集 全商 1 級 会計 (実教出版)				
授業の概要	財務諸表の作成に関する知識と技術を習得させ、財務会計の意義や制度について理解させるとともに会計情報を提供し、活用する能力を育てる。				
授業の目標	(1) 財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2) 企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題対応するとともに、会計的側面から企業を分析する力を養う。 (3) 会計責任を果たす力の工場を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				

	学期	学習内容 (単元・項目)	学習目標
年間学習計画	1 学期	第 1 編 財務会計の基礎 第 1 章 企業と会計 第 2 章 企業会計制度と会計法規 第 2 編 貸借対照表 第 3 章 貸借対照表のあらまし 第 4 章 資産の意味・分類・評価 第 5 章 流動資産 第 6 章 流動負債 第 7 章 固定資産 第 8 章 固定負債 第 9 章 固定負債 第 10 章 負債の意味と分類 第 11 章 流動負債 第 12 章 固定負債	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業会計の意味と役割、財務会計の機能と会計公準の内容を理解する。</li> <li>・財務諸表の種類を明らかにする。</li> <li>・資産評価の意味・基準を明らかにし、その重要性を理解する。</li> <li>・その他の流動資産の意味と種類を明らかにし、記帳に習熟する。</li> <li>・負債の意味と分類を明らかにし、分類基準を理解する。</li> <li>・引当金の意味を明らかにし、役員賞与引当金の記帳について理解をはかる。</li> <li>・保証債務の記帳法を理解する。</li> <li>・固定負債の意味を明らかにし、その記帳に習熟する。</li> </ul>
	2 学期	第 13 章 純資産の意味と分類 第 14 章 資本金 第 15 章 資本剰余金 第 16 章 利益剰余金 第 17 章 自己株式 第 18 章 貸借対照表の作成 第 3 編 損益計算書 第 19 章 損益計算書のあらまし 第 20 章 損益計算の意味と基準 第 21 章 売上高 第 22 章 売上原価、販売費及び一般管理費 第 23 章 営業外収益・営業外費用 第 24 章 特別利益・特別損失 第 25 章 損益計算書の作成 第 26 章 その他の財務諸表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・純資産の意味と分類を明らかにする。</li> <li>・貸借対照表作成上の原則や注記などについて理解する。</li> <li>・損益計算書の役割・区分・様式など、その概略を明らかにする。</li> <li>・実際の企業の貸借対照表・損益計算書を参考にケースメソッドを行う。</li> <li>・売上原価の意味と販売費及び一般管理費の種類について整理する。</li> <li>・営業外収益・営業外費用の意味・種類を明らかにする。</li> <li>・経常利益・経常損失の意味を明らかにする。</li> <li>・特別利益・特別損失の意味・種類を理解させる。</li> <li>・株主資本等変動計算書の意味とその作成方法を理解する。</li> </ul>
	3 学期	第 4 編 財務諸表の活用 第 27 章 財務諸表のディスクロージャー 第 28 章 財務諸表分析 第 5 編 連結財務諸表 第 29 章 連結財務諸表のあらまし 第 30 章 連結財務諸表の作成 第 31 章 連結財務諸表の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財務諸表分析の意味・方法を明らかにする。</li> <li>・連結財務諸表の意味や目的を明らかにし、連結財務諸表の概略を理解する。</li> <li>・連結貸借対照表と連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書のひな形を確認し、連結精算表から連結財務諸表を作成する。</li> <li>・実際の企業の連結財務諸表を参考にケースメソッドを行う。</li> </ul>

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	財務諸表の作成に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、財務会計の意義や制度について理解し、会計情報を提供し、活用することを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	会計情報を提供し、活用することを目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	財務諸表の作成について関心をもち、その諸活動への適切な対応を目指して主体的に取り組もうとするとともに、財務会計の意義や制度についての理解や実践的な態度を身に付けている。
評価方法	ワークシート ペーパーテスト (定期考査、小テスト)	ワークシート ペーパーテスト (定期考査、小テスト)	ワークシート



教科	商業	科目	原価計算	単位数	3
教科書 (出版社)	原価計算 (実教出版)				
副教材 (出版社)	反復式 原価計算問題集 全商1級 原価計算 (実教出版)				
授業の概要	製造業における原価計算及び簿記に関する基本的な知識と技術を習得し、原価計算の基本的な考え方やその計算方法を正しく理解し、有効に活用する能力を育てる。				
授業の目標	(1) 原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2) 原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。 (3) 企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び、適切な原価情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
年間 学習 計画	学期	学習内容 (単元・項目)			学習目標
	1 学期	第1編 原価計算の基礎 第2編 原価の費目別計算 第3編 原価の部門別計算と製品別計算			<ul style="list-style-type: none"> <li>学習のスタートに当たり、原価計算の基礎的な内容を理解する。</li> <li>原価計算の一連の流れを理解する。</li> <li>材料、労務費、経費の支払高と消費高の計算方法、記帳方法について理解する。</li> <li>部門別個別原価計算の計算方法、記帳方法について理解する。</li> <li>総合原価計算の種類や特色、手続きの流れ、原価計算表の作成方法や記帳方法について理解する。</li> </ul>
	2 学期	第3編 原価の部門別計算と製品別計算 第4編 製品の完成・販売と決算			<ul style="list-style-type: none"> <li>製品の販売と販売に伴う手続きと記帳方法を理解する。</li> <li>標準原価計算の意味、目的、特色や仕組みなどの手続きを理解する。</li> <li>直接原価計算による損益計算書の作成方法を理解し、損益分岐点表により売上高、原価、利益の関係を理解する。</li> </ul>
	3 学期	第4編 製品の完成・販売と決算 第5編 標準原価計算の基礎 第6編 直接原価計算の基礎			<ul style="list-style-type: none"> <li>標準原価計算の意味、目的、特色や仕組みなどの手続きを理解する。</li> <li>直接原価計算による損益計算書の作成方法を理解する。</li> </ul>
学習の評価					
観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
評価 規準	原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。		原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を身に付けている。		企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び、適切な原価情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価 方法	ワークシート ペーパーテスト (定期考査、小テスト)		ワークシート ペーパーテスト (定期考査、小テスト)		ワークシート



教科	商業	科目	プログラミング	単位数	3
教科書 (出版社)	プログラミング (東京法令出版)				
副教材 (出版社)	学習と検定 全商情報処理検定テキスト 2級プログラミング部門 (実教出版) 全商情報処理検定 模擬試験問題集 プログラミング 2級 (実教出版)				
授業の概要	プログラミングに関する知識と技術を習得し、プログラムの役割や重要性について理解するとともに、ビジネスの諸活動においてコンピュータを合理的に活用する能力と態度を育てる。				
授業の目標	アルゴリズムについて思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現できるようにする。				

年	学期	学習内容 (単元・項目)	学習目標
		1 学期	第1章 情報システムの重要性 第1節 情報システムとプログラム 第2節 情報システムの活用  第2章 ハードウェアとソフトウェア 第1節 ハードウェアの機能と動作 第2節 ソフトウェアの体系と役割  第3章 アルゴリズムの表現技法とデータ構造 第1節 アルゴリズムの表現技法 第2節 データ構造
年間	2 学期	第4章 手続き型言語のプログラミング 第1節 プログラミングの手順 第2節 データの入出力と演算 第3節 条件判定と繰り返し処理 第4節 配列の利用  第5章 プログラムと情報システムの開発 第1節 情報システム開発の手順と手法 第2節 プロジェクト管理 第3節 情報システムの評価と改善 第4節 情報システム開発と法規等	<ul style="list-style-type: none"> <li>手続き型言語のプログラミングについて学び、関連する技術を身に付ける。</li> <li>表計算ソフトウェアのプログラミング機能を利用して、実際にプログラムを作成して実行する。</li> <li>開発手順、プロジェクト管理、情報システムの評価、著作権の保護など、プログラムや情報システムを開発するために必要な知識や技術について学ぶ。</li> </ul>
	3 学期	第6章 手続き型言語を用いた情報システムの開発 第1節 情報システムの開発演習①  第7章 オブジェクト指向型言語のプログラミング 第1節 オブジェクト指向型言語 第2節 UMLによる図解表現 第3節 オブジェクト指向型言語を使ったアプリ開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでに学習してきたことを活用して、実際に情報システムを開発する。</li> <li>アプリ開発向けのオブジェクト指向型言語に関する基本的な知識や技術について学ぶ。</li> </ul>

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	マクロ言語学習を通して、プログラミングに関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付け、アルゴリズムの意義や役割について理解している。	マクロ言語学習を通して、アルゴリズムについて思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現している。	プログラミングについて関心をもち、企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、コンピュータの合理的な活用方法について主体的に探究しようとしている。
評価方法	ワークシート ペーパーテスト (定期考査、小テスト)	ワークシート ペーパーテスト (定期考査、小テスト) パフォーマンス課題	ワークシート パフォーマンス課題



教科	商業	科目	ネットワーク活用	単位数	3
教科書(出版社)	ネットワーク活用(実教出版)				
副教材(出版社)	30時間でマスター Webデザイン 改訂版(実教出版)				
授業の概要	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるインターネットの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
授業の目標	(1) ビジネスにおけるインターネットの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) ビジネスにおいてインターネットを活用することに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるインターネットの活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				

年間学習計画	学期	学習内容(単元・項目)	学習目標
	1学期	(1) 情報通信技術の進歩とビジネス ア ICTにより創造される新しいビジネス イ 個人情報と知的財産の保護 ウ 関連法規とガイドライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報通信技術の進歩により実現する、インターネットの活用を中心とした新しいビジネスの実際を学び、情報通信技術が進歩した社会におけるビジネスで、個人の権利や取引の安全をはかるために必要な法規などを学び、ICTの活用に関する基本的な知識と態度を身につけることを目標とする。</li> </ul>
(2) 情報コンテンツの制作 ア 図形と静止画 イ 音声と動画		<ul style="list-style-type: none"> <li>Webページを作成する際に必要となる図形、静止画、音声、動画などの各種情報コンテンツを取得、作成、編集する基本的な知識と技術を、実習を通して学習する。</li> </ul>	
2学期	(3) 企業情報の発信とWebデザイン ア Webページの制作とデザイン イ Webページ制作の基礎 ウ Webページ制作の応用	<ul style="list-style-type: none"> <li>Webページを制作するために必要な知識やデザインと配色を学習する。</li> <li>Webサイトを制作するために必要な技術を学習する。</li> </ul>	
	(4) インターネットと情報セキュリティ ア インターネットのしくみ イ ハードウェアとソフトウェアの導入 ウ 情報セキュリティの確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネットのしくみやネットワーク技術、必要となるハードウェアやソフトウェアの導入について理解し、情報セキュリティの確保やその対策の重要性について学習する。</li> </ul>	
3学期	(5) 電子商取引とビジネス ア ネットワークを用いたビジネスと電子決済 イ 電子商取引サイトの開店準備 ウ Webページ制作と集客方法 エ ビジネスの創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報システムの開発の手法と手順について学び、企業の業務改善に役立つプログラムを習得し、情報システムの開発を行うことで、電子商取引とビジネスについて学習する。</li> </ul>	

学習の評価			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	ビジネスにおけるインターネットの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	ビジネスにおいてインターネットを活用することに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるインターネットの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	ペーパーテスト (定期考査、小テスト) パフォーマンス課題	ペーパーテスト (定期考査、小テスト) パフォーマンス課題	小テスト、取組姿勢 パフォーマンス課題



教科	日本語	科目	日本語Ⅱ	単位数	2
教科書(出版社)	みんなの日本語 初級Ⅱ(スリーエーネットワーク)				
副教材(出版社)	増補改訂版 日本語総まとめ N3 (アスク出版)				
授業の概要	日本語を理解し効果的に表現する資質・能力を身に付ける。				
授業の目標	(1) 学校生活の中で、日本語で日常会話ができる。 (2) 基本的な語彙や漢字を使って、身近な話題の文章を読むことができる。 (3) 日本語能力試験N3レベル程度の力を身に付ける。				

	学期	学習内容(単元・項目)	学習目標
年間学習計画	1学期	<b>【40・41課】</b> <疑問詞>+<普通形>か、～わたしは<人>に<物>をいただきます わたしは<目下の者/動食物>に<物>をやります 等 <b>【42・43課】</b> <V辞書形/Nの>のために<イ形容詞/ナ形容詞>そうですVて来ます 等 <b>【44課】</b> <イ形容詞/ナ形容詞>すぎますVにくいです <ナ形容詞/名詞>にします 等	○疑問文を文の一部に組み込んで、疑問に思っていることについての感想、判断またはそれに基づく行動が表明できる。やってみようと思うことが言える。 ○上下や親疎の関係をわきまえた授受表現を使うことができる。丁寧な依頼ができる。 ○行為の目的や目的を達成するためにすることを表明できる。物の用途、評価が述べられる。何かをするために必要な時間、経費が言える。 ○物事の外観から、その変化や見通しや状態・性質を推測して表現できる。目的の行為を終えて、元の場所に戻ることが伝えられる。 ○動作や程度が度を越し、好ましくない状態になったことが言える。物を使用する際の難易度を示すことによって、その物の評価が表せる。自分の選択、決定を伝えることができる。
	2学期	<b>【45・46課】</b> <V辞書形/ナイ形/タ形>場合は<普通形>のに<V辞書形>ところです <普通形>ははずです 等 <b>【47・48課】</b> <情報源>によると、<普通形>そうです 動詞の<使役> <人>を<自動詞の使役>(強制) <人>を<自動詞の使役>(許容) <使役テ形>+いただけませんか(許可を求める) 等 <b>【49課】</b> 特別な尊敬語 お/ごVください 等	○ある事態を想定し、その対処のし方を述べることができる。 ○動作の段階を述べることによって、事態や状況を説明することができる。動作が終了してからあまり時間がたっていないという気持ちを表すことができる。 ○ほかから得た情報をそのまま伝えることができる。自分の五官でとらえたその場の状況から判断されることが述べられる。 ○他者(下位の者)への行為の強制や許可・容認を表すことができる。丁寧に許可を求めることができる。
	3学期	<b>【50課】</b> おVします ごVします 特別な謙譲語 丁寧語 等	○「上下」「親疎(ウチ・ソト)」の人間関係に基づく敬語全体の体系を理解し、謙譲語を適切に使うことができる。

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	日本の生活に必要な日本語の知識や技能を身につけるとともに、適切に使うことができる。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばすことができる。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。
評価方法	プリント 考査(定期考査・小テスト) 発表等	プリント 考査(定期考査・小テスト) 発表等	プリント 発表等

